

在日豪大使館コート大使，クーパー公使の表敬訪問及び グリーン在札豪領事への北海道大学アンバサダー委嘱状交付式を開催

12月17日（火），在日豪州大使館のリチャード・コート大使，ブレット・クーパー公使（兼豪州貿易促進庁北東アジア担当ジェネラル・マネージャー），在札幌豪州領事館のロナルド・グリーン領事（兼豪州貿易促進庁貿易官）の笠原正典総長職務代理への表敬訪問に合わせて，グリーン領事への北海道大学アンバサダー委嘱状交付式を開催しました。

グリーン領事と北海道の関わりは古く，北見柏陽高等学校への留学経験や，ご父君である豪タスマニア大学地質学者・豪国立大学名誉教授のデイヴィッド・グリーン博士が，本学総合博物館の客員教授として共同研究を行っていたことに端を発します。その後は，本学聴講生として日本語能力試験1級を取得し，日豪の経済連携に20

年以上関わった後，在札幌豪州領事館領事に着任していました。領事として，本学と，メルボルン大学，シドニー大学，シドニー工科大学，カーティン大学といった豪州大学との共同研究・教育連携や，産学研究連携の支援を幅広く行っており，今般の委嘱式には，国際連携研究教育局（GI-CoRE）人獣共通感染症グローバルステーションの新開大史准教授，同関屋俊輝助教，食水士資源グローバルステーション長の井上 京教授，ビックデータ・サイバーセキュリティグローバルステーション長の宮永喜一教授，同吉岡真治教授，工学研究院の五十嵐敏文教授らが参列しました。

グリーン領事からは，北海道大学アンバサダーの打診があった折，ご父君に相談したところ後押しされたこと，

初めてのオセアニア地域からの北海道大学アンバサダーとして，長きにわたる縁を活用していきたいことが語られました。列席のコート大使からは，IT，健康，農学，先住民研究等の分野で，北大と豪大学の活発な連携が起きていることは喜ばしく，特に西豪鉱業プロジェクトや豪サイバーセキュリティにおける協力を期待したいとの表明がありました。クーパー公使からは，令和元年内で在札幌豪州領事館を閉館しても，豪州にとって北海道が重要な連携相手であることに変わりはなく，今後は公使が教育等の項目を立てての連携を日本国内機関に対して行っていくと伝えられました。

（総務企画部広報課，国際連携機構）



歓談風景



アンバサダー委嘱を受けたグリーン領事



参加者集合写真